

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第2回豊島区観光振興プラン策定委員会
事務局(担当課)		文化商工部文化観光課
開催日時		平成30年 5月21日(月) 14時~16時
開催場所		区役所本庁舎5階 509・510会議室
議 題		1. 開会 (1) 会長挨拶 (2) 委員紹介 (3) 前回議事録の公開について 2. 報告 (1) 前プランの振返り (2) ワーキンググループの実施報告および提案について 3. 議事 観光振興プラン項目(案)について 4. 閉会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数1人
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	安島委員、羽生委員、近江委員、佐藤委員、田嶋委員 平井委員、小寺委員、佐々木委員(上野委員代理)、森永委員 河畑委員、杉江委員、高橋委員、齋藤委員 欠席者 坂爪委員、上野委員、木崎委員
	そ の 他	東京都産業労働局観光部振興課長、公益財団法人としま未来文化財 団事務局長、企画課長、生活産業課長、東京オリンピック・パラリ ンピック連携担当課長、都市計画課長
	事 務 局	文化観光課長、マンガ・アニメ活用担当課長、文化観光課職員4名

審 議 経 過

1. 開会

(1) 会長挨拶

会長:平成25年度に観光振興プランを策定した時に比べてオリンピックが間近に迫り、インバウンドが大きく増加し、状況が変わってきました。第1回目で皆様から自由に現状の認識や課題をご発言いただき、それをもとにワーキンググループを開催し、具体的に豊島区の観光のあり方について議論しました。今回の委員会でこの豊島区の観光地としてのあり方、どういう方向に行くべきか、基本的な方向性について議論していきます。中身に立ち入った部分、アイデアについて事務局からご報告いただけたらと思いますが、それを参考に、まずは観光地としてどのような方向に行くかということを決めることを本日の目標にしたいと思います。

(2) 委員紹介

事務局:今年度第1回の委員会ということもあり、委員の皆様へ一言ご挨拶をいただきたいと思っております。

(委員自己紹介)

(3) 前回議事録の公開について

事務局:資料2は2月6日の会議録です。遅くなってしまいましたが、次回以降は会議録ができ次第、修正依頼を行い公開していきます。本日の会議録について6月4日まで意見等の修正があれば文化観光課にご連絡いただき、その後修正し公開します。ここからは事務局から会長に議事の進行をお願いします。

2. 報告

(1) 前プランの振り返り

事務局:資料の4,5をご覧ください。こちらは前回のプランの実施状況で、平成26~28年度の状況が書かれています。平成29年度は現在取りまとめ中です。時間の関係で1-1-1を中心に説明させていただきます。まずとしまオンリーワンブランドの創出ですが、内容としてはソメイヨシノやトキワ荘、池袋モンパルナスがあります。グルメやアニメに加え、平成27年完成の新庁舎や現庁舎の活用により生まれた新たな資源を生かしとしまブランドを作り上げます。ソメイヨシノではアーカイブを作り、マンガ・アニメの活用ではトキワ荘の復元として進んでいます。その他ふくろうのまち、新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館事業、グルメタウンの推進があり、盛りだくさんの事業です。1-1-2観光ルートの開発ということで、磨き上げた魅力を生かして観光ルートを開発し回遊性の向上を図ります。散歩ルートの公募、屋上庭園、ルート開発が具体的な事業です。1-2-3インバウンドの推進では、外国人旅行者誘致のため事業者と連携し、ガイドブックや飲食メニューの整備を行います。平成27年度以降ガイドブックの発行、Wi-Fiの設置、

インバウンド冊子を作ってきました。2-1-5 新たな情報発信手段の開拓では、IT 情勢の変化に迅速に対応し、関係事業者と連携し最新の発信手段を活用するとともに新たな視点による発信手段を研究します。最先端情報発信手段企業とのタイアップ、情報交換の仕組みづくりを行いました。また Wi-Fi 環境の整備、デジタルサイネージの情報発信を始めています。豊島区観光振興推進委員会の設置では、前回のプランの策定後の進捗状況を定期的に確認し目標達成に向けた計画管理を行う委員会を設置しました。最後に池袋駅地下通路ではサイン整備を行い、安心安全な環境を整備しています。平成 28 年度までは防災計画の策定ガイドラインの検討を行ってきました。

(2) ワーキンググループの実施報告および提案について

事務局：資料 5 をご覧ください。3 月 29 日に開催したワーキンググループの報告です。

(2) で意見内容をまとめています。豊島区のイメージや課題については国際アート・カルチャー都市構想を軸に、知られていない魅力を PR していこう、豊島区の状況が変わり推進できるプランが必要だ、駅のサインが分かりやすくなれば良いといった意見が出ました。ターゲット、マーケットの設定では、ターゲットを絞る方がプランは推進しやすい、身体的に配慮が必要な人にも訪れやすい街であることを PR していこうという意見が出ました。誰のためのプランを策定するのかについては来訪者、または区民のためという意見が出ました。プランの方向性では来訪者の量よりも質を上げていく、民間事業者が賛同できる施策を打ち出す等の意見が出ました。

4 月 25 日に行われた第 2 回ワーキンググループではグループに分かれて議論を行いました。前提としては国際アート・カルチャー都市構想を軸にプランを展開し、安心安全の町であることとしました。方針は新たな魅力の創出です。情報発信を強化し豊島区らしさの認知度アップ、キャラクターによる PR が上げられました。多様な観光客のための受け入れ環境整備では、ハード面で回遊ルートの整備、Wi-Fi の整備、ソフト面では区民のホスピタリティの醸成、人材の育成が挙げられました。ターゲットは各グループで分かれ絞りきれっていません。豊島区として考えられるターゲットは国際アート・カルチャー都市構想を軸とした富裕層、テーマ別のターゲット等雑多な意見が出ました。

会長：何か補足があればお願いします。

委員：ワーキンググループは大抵時間が不足します。議論は活発にできましたが、まとめ上げるまでに時間が不足していたのが実情です。多様な意見を取りまとめたいただければと思います。1 ページ目は初回に自由にいただいた意見です。2 回目は三つの範囲で議論を行い、更にまとめるとこのように項目出しはできていますが具体的な中身までは見えづらくなっています。両方のワーキンググループで出てくる意見として、池袋が核となる豊島区という街がどのような客を呼びたいの

かということであり、誰でも良いから呼ぶということではありません。現在進行している国際アート・カルチャー都市構想が軸になり、それを大きなターゲットに据えることが前提条件になります。プラスアルファオリパラ後も含めてどのような客を受け入れたいのかについての議論ができていません。サイネージの意見も出ていましたが、マンガ等文化的なものもありターゲット別の施策が必要で、それを網羅的に行うのか、ある程度絞るのかはこの場でも意見をいただきたいと思います。

次に区民目線がベースにあり、賑やかな町になってほしい一方で安心安全な街が求められています。来街者の安全も守られることが観光の重要な施策である一方、我々の住環境が豊かなものとして維持できるのかということに不安を感じる人もいます。明確な意見ではありませんが、来街者の数を増やしたいというよりも、国内にいろいろな人が来ている中、どういった人に来てもらいたいのか、絞ることが豊島区の段階なのではないでしょうか。

もう一つ、区側の努力とともに民間事業者の協力が大事になってきます。区民と民間事業者それぞれが組んで何が豊かにできるのかという視点が必要です。それを区が投げかけて区民や事業者にやる気になってもらう意識づくりが大事になるという意見も出ました。まずはその三点、ターゲット、区民目線、民間事業者の協力について委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。

会長：誰を呼ぶのかという話ですが、街に応じた人が来て、来た人が街を作ります。

実際には毎日 200 数十万人が区を訪れていますが、その人たちにどのようなアクションをするのか。ターゲットは絞りづらいですが重要な論点です。安心安全ということですが、人が増えることは基本的に観光圏では歓迎だが住民には心配が多く厳しく制限しているところも多くあります。数を増やすことと、住民が安心して住める町のバランス、その考え方をどう収束していくのか。さらに民間事業者、たくさんのステークホルダーがいて同じ舞台で調整していくということがあります。一つの方向を見つけていくプラットフォームをどう作っていくかということにも繋がっていきます。この点について議論をいただき方向性を詰めていきたいと思います。

3. 議事 観光振興プラン項目（案）について

事務局：資料 6 について説明させていただきます。この資料はこれまでの情報を整理し、今回のプランのたたき台となるような項目、論点についてまとめ直しました。前回の委員会、ワーキンググループでも出ましたが、今回のプランの前提としてベースとなる国際アート・カルチャー都市構想実現戦略があります。これらを踏まえて作成しています。各項目の概要のみ説明させていただきます。

I 「背景と目的」ですが、2014 年の日本創生会議で豊島区が 23 区で唯一消滅可能性都市に位置付けられ、区の方針で持続発展都市が観光振興プランの上位概念と

して位置付けられています。

Ⅱ「期待・効果」ではプランを推進し実現するアウトカムとして位置付けています。こちらは戦略の中で持続発展都市を構成する、目指すべき概念として文化創造都市、安全安心創造都市というものが位置付けられています。

Ⅲ「現状と課題」ですが、こちらは前回ご覧いただいた概要版の調査結果とワーキンググループでのご意見をもとに項目化しています。会長からもあったように、策定時とはインバウンド、国内旅行社の動向、観光マーケットが大きく変化しています。オリパラもあり豊島区自体も大きく変わっているため、現状を改めて押さえておく必要があります。1では国内における観光マーケット全体のマクロ環境、インバウンド、着地型観光の潮流について項目化しています。2で都内の観光マーケット、豊島区の動向について、豊島区の観光資源、コンテンツも押さえておく必要があります。3内外の先進的取り組み事例は今後課題を踏まえて参考となる事例を見て盛り込むべきだと想定しています。4でこれまでの現状と課題の中で重点的に取り組むべきものは何か、方針をまとめていきます。

Ⅳ以降は仮の案です。目標や方針がある程度決まらなるとこの後の施策に進むことができないため、一旦全体を俯瞰するため仮置きしています。目標はワーキンググループで出たものを仮置きしています。今後の議論で決定していくべきものと認識しています。目標実現に紐づく方針を三つ掲げました。これらもワーキンググループ、戦略、調査結果を参考に仮置きしています。

方針を実現するための具体的施策は3の取り組み施策の立案と体系以降の部分となります。こちららも今後の議論を踏まえて掲げていきます。

1) ①現状の観光マーケットを踏まえて、豊島区の観光シェアを拡大するための施策、市場に対して豊島区の強みをどう生かしていくのか。②オリパラを見据えて現在も行われている文化プログラムを更に広く展開していく。③それらを踏まえて東アジア文化都市のポジションを確立することが構想実現に資するのではないのでしょうか。

2) ワーキンググループでも多く出ていた意見です。情報発信の不足と必要性、ブランドの必要性、観光マーケティングマネジメントでは話が出ていたターゲット、回遊も含めた来街者満足をどのようにしていくのかという論点ではないのでしょうか。

3) は環境整備をどうしていくのか。①端的に言うとは観光振興で攻めの態勢をどうするのか。②受け入れ、守りの態勢をどうするのか。重要な論点として住民目線が何度も出てきました。③来街者向けの環境整備について、Wi-Fi環境、インターネットの地図、バリアフリーという詳しい話題がワーキンググループでも出ていたため抽出しています。

Ⅴ以降については昨年の調査結果から今後の施策を検討する論点として羅列しています。あくまで今後の議論で決定していくものです。説明は以上です。

会長：ありがとうございます。説明をもとに議論していきたいと思います。何か質問はありますか。

委員：Vの位置付けについて、昨年度の調査とおっしゃりましたが、このキーワードはこれからしていこうという話なのでしょうか。

事務局：昨年度実施した調査の中で、こういったものについて論点として考えてはどうかと案が出ていました。一つの案としてご検討いただければと思います。

委員：例えば右側に具体的に4公園の整備と書かれていますが、これは実際に整備されるため、今更整備しようという話にはなりません。こうなるとここに書かれているキーワードはどのような位置付けになるのでしょうか。今の方針では不十分であるため観光面から活用することを考えた方が良いという意味でしょうか。現状あるものを書いていただいたということでしょうか。

事務局：その通りです。

会長：主に2の目標実現の方針（1）新たな魅力の創出—多様性を踏まえた文化芸術の展開、2）情報発信の強化—国際アート・カルチャー都市としまを世界に発信、3）受入環境の整備—出会いが生まれる劇場空間）について、これで良いのかということを探りして議論していきたいと思います。いかがでしょうか。私からの質問になりますが、「出会いが生まれる劇場空間」とはどのようなことを言っているのでしょうか。

事務局：多種多様な人々が池袋に集まってくるように、そのきっかけとなるための様々な劇場や空間を設計していくということです。そのための整備という意味合いで書いています。

会長：三つとも似ており、言い変えただけではないでしょうか。劇場的空間については、都市構造自体がドラマチックであるといった捉え方もあります。今の説明では劇場に来ている人について言っており、「受け入れ環境の整備」とは異なるのではないのでしょうか。劇場自体は魅力そのものです。重なったことが書かれているという印象です。

委員：補導員をしていますが、公会堂の前の公園はきれいで座ってしゃべる方、たばこを吸っている方が以前より増えています。板橋区の方に、豊島区では宝塚や歌舞伎が観られるということに驚かれたことがあります。劇場という表現をオブラートにくるみ、劇場を池袋で見られるというニュアンスにしてはどうでしょうか。

会長：劇場と前にある公園が一体化した空間が誕生するという表現は良いですね。

委員：豊島区にしながら歌舞伎や宝塚が見られることがすごいと言われます。そういったPRをたくさんして集客する活動も良いのではないのでしょうか。劇場前の公園に花を入れて気持ちや和むような環境づくりも良いです。

会長：劇場前に公園がありますが、西口の公園はまた性格を変えて来た人をもてなすといった具体的な提案が良いです。

委員：公園について事実を話しますと、4つの公園を手掛けていて、中池袋公園、南池

袋公園、池袋西口公園、東池袋公園がありますが、それぞれ明確に性格を位置付けて個性を出そうとしています。

会長：造幣局地区の公園は防災も大事ですが、楽しみ方はないでしょうか。

委員：1万7,000平米の大きな公園で、半分が防災機能を持っており、4分の1に東京国際大学を誘致して、国際性が一つの魅力となります。また合わせて、文化交流施設を設けます。まだ具体的ではありませんが楽しみ方の創出に向けて取り組んでいます。

都市計画課長：駅周辺に限って言うと、整備地域に指定され開発が進み、劇場だけではなく公園など都市再生特区を利用したグリーン大通りという、人が集まる空間整備が区の大きな目標です。例えば再開発で出た空き地も劇場として皆様に使ってもらい整備を進めていきます。その意味での劇場空間という認識で良いのではないのでしょうか。

会長：私が申し上げたかったのはそういうことでした。パリは劇場都市で、歩いている人や街へ来た人が主役となって目立つ街というのが良いのではないのでしょうか。グリーン大通りをどう生かすのか。劇場の一環としてこのプランに入れていきたいです。他にいかがでしょうか。

委員：ワーキンググループに2回参加しましたが、資料6のIVの課題の整理で、課題が絞りきれっていないのではないのでしょうか。課題が何度やっても見えてこないというのが正直なところですが、区のいろいろな部署の方がいらっしゃるとその目線で区を良くしていこうとされていますが、観光はどこを目指すのか大きく打ち出してほしいと言う方がいらっしゃいました。そうすると観光振興プランは、もちろん区民の目線や安全安心を書くことも必要ですが、それは都市計画課や防災危機管理課の仕事だとすると、そこに対する提言でも良いのではないのでしょうか。区内全部がアート・カルチャーだとすると、豊島区のどこに行っても自分が主人公で、そこに入って喜ばれる人が来るまちづくりを観光振興プランで示してはどうでしょうか。こういう人に来てほしいということを観光振興プランは示して良いのではないのでしょうか。

会長：観光振興プランは何を提言するのかということは大事です。プランの中心に国際アート・カルチャー都市構想があり、これを含んで、観光としては何を目指していくのかということでしょうか。発信をすることも大事ですが、それよりもどういう魅力を感じて豊島区に来てもらうかという価値を創造することが大事です。国際アート・カルチャー都市構想が大きいことは間違いありませんが、もっと豊島区の魅力は他にないのでしょうか。食の魅力はほとんど触れられていません。食の魅力がないと人が来ず、ナイトタイムエコノミーも成り立ちません。来街者の質を上げると書いていますが、劇場に期待するところが大きいです。その後食事をする場所があるのでしょうか。またインバウンドも重要なお客様になります。ただ日本全体で増えていますが8割はアジアの人です。更に池袋はアジアの

比率が高いです。アジアの人をどうもてなすかがどこかにあっても良いでしょう。欧米豪から呼んでラグジュアリーなビジネスを展開しても良いですが、そのためには道筋をしっかりと書く必要があります、アジアの人も含めて夜にお金を使ってもらうには宿泊をどうするのかという議論も必要です。現在、シティホテルの機能を有しているのはメトロポリタンホテルしかありません。

委員：観光に力をいれていくということでは、シンガポールは観光に力を入れて国全体で変えました。マリーナベイサンズ、ガーデンズバイザベイ等すべて人工です。シンガポール人はオーチャード通りというメインストリートには1台に4人乗っていないと車で通れないのです。国が徹底的に規制しています。またタバコが吸えない、ガムがかめないという制限があります。区民のためにという話が出ていましたが、シンガポールのように極端に厳しい規制をして区民にまで負担を強いるのではなく、ターゲットを観光客に絞るべきではないでしょうか。先ほどおっしゃっていた食についても、よく聞かれるのが、ラーメンや居酒屋ですが、我々が台湾に行って夜の屋台に行きたい感覚なのではないでしょうか。うちのホテルの近くの居酒屋には外国人しかいません。池袋近辺は比較的店が揃っています。私のところにロコミサイトを集計した結果が届きますが、基本的に海外の人はおおよそ満足して、また池袋に泊まりたいと言っています。ターゲットを観光客に絞って話を進めるべきではないでしょうか。

会長：私は自分で調査したことはありませんが、直感的に外国人は池袋で食事をするのが楽しいのではないかと思います。ただそれは我々が計画して提供し評価しているのではなく、彼らの方が進んで情報を入手しています。SNS等で調べて楽しんでいます。我々は更にその先に行く必要があります。傾向や好みを読み取って、それを池袋の個性として発信できるようにすることが大事です。

委員：ラーメンの話ですが、調べるとミシュランに載っているラーメン屋が豊島区には4軒あり、ゴールデンウィークにそのうちの1軒に行き、インスタグラムにアップしました。タカセのパンや雑司が谷のメロンパンも写真に撮って上げました。ドイツ語で発信していますが、フランクフルトの日本観光局の方が書き込みをしてくれました。地道に発信を行うことも必要ではないでしょうか。

会長：豊島区内でミシュランの星の付いている店はいくつあるのでしょうか。

委員：ラーメン屋だけで、ピブグルマンが2軒、一つ星が2軒あります。

会長：そういう持っている強みを活かすべきだと思います。かつてマップを作るという取り組みがありましたが、成果が上がりませんでした。行政として何ができるのか検討することが大事です。

委員：メトロポリタンホテルでは、昨年「OMOTENASHI～おもてなし～」という名前で、焼き鳥2本、生ビール、だし巻き卵、枝豆、刺身を2,000円で外国人向けに提供しています。SNSで「池袋で焼き鳥を食べてみた」という書き込みを見たからです。また、ラーメンが人気だということで提供していますが、全客室にメニ

ューを設置し、エレベーターにも掲示しましたが全くオーダーが出ません。外国人はホテルのきれいなレストランではなく屋台に行きたがるのでしょうか。

委員：感覚の違いでいえば、私が先日海外から二回来ている外国人にインタビューすると大塚が話題に上がっていました。狭苦しい店が人気だったそうです。他の客との距離も近く話しやすいので良いと言っていました。また、大阪のあいりん地区は、日本人が旅行目的地とすることはまれかと思いますが、訪日外国人のバックパッカーには人気です。フレンドリーで声をかけてくれることが気に入られています。日本人の感覚と外国人の感覚は違います。

会長：労働者向けの低価格ホテルがあったところは、バックパッカー向けのゲストハウスが増えてきています。新しいタイプの宿泊施設がたくさんできており、浅草には有名な宿ができ、ゲストハウスとしてリノベーションされています。このように新しいタイプの宿泊施設が出て来ていますが、そのような動きを豊島区はどう考えるのでしょうか。

委員：大塚に星野リゾートのホテルができました。値段も 7,000 円からとリーズナブルです。先日見学会に参加しました。ホテルで食事を出さず大塚の街に出て食べてもらうコンセプトです。まちおこしというのは町会がやるのでしょうか。区政でやるのでしょうか。まちおこしは大事です。星野リゾートはある意味、大塚のまちおこしをしてくださっているような感じがします。都電大塚駅近辺の以前は人通りの少なかった地域が、今回変わりました。恵比寿でまちおこしに関与した店が加わっていますが、白い提灯がきれいでその地域一帯のイメージアップに寄与しています。地元の人から見ても素敵です。星野リゾートとその一角が相乗効果を出しています。このようなまちおこしも一つの方法ではないでしょうか。

委員：星野リゾートでは従業員が泊まっている方を街に案内しています。

会長：星野リゾートは、新しい取り組みをしています。まちおこしは基本的に街の人がやるのですが、外から来た人でも、やれることはあります。JR ホテルのフォルクローロやアルビオンもそういう方針です。

委員：JR ホテルのフォルクローロやアルビオンはあまりうまくいっていませんが、方針はホテル外に出て食べて下さいということです。

会長：今度の民泊については、豊島区は規制をあまり厳しくしませんでした。そのため民泊を通して、いろいろなものが出てくる可能性があります。

委員：ずっと豊島区で生まれ育っているので、街ににぎわいがあり、きれいになって、来る人がお金を落としてくれ、区政が潤い、無電柱化が進み、植栽等も良くなるという循環が幸せだと思います。安全安心も大事ですが、そちらに引きずられると来街者を増やすという大きな目的を達成できないのではないのでしょうか。池袋の地域性があります。池袋の良さは気軽さ、いろいろなものが混ざり合っていることです。国際アート・カルチャー都市構想はクオリティの高いものですが、掘り下げるとターゲットが絞られてきます。その按配が大事です。気軽に本物が楽

しめることが良いです。東京の中での位置付け、ポジションもあります。城北地区がどこまでメジャーになっていくのでしょうか。そうなるとやはり按配ではないのでしょうか。

会長：川越には人がたくさん来ていますが、観光客が来ることによりレストラン等の選択肢が増えました。少し有名になってきているようです。一方、観光客の増加により、住民の交通利便性に影響が出ている鎌倉の人に聞くと必ずしも良いという意見ばかりではありません。

委員：他の委員の方の意見にも関連がありますが、外国人にアンケートを取ると、池袋は買い物についてはコンパクトにまとまっているため良いと言われます。電器店、デパートが二つあります。飲食店もたくさんあります。ただし宿泊と観光スポットが他のエリアに比べて少ないという意見がありました。それが課題ではないのでしょうか。千葉や横浜もそうですが、国際会議場を先に作り、大きな会議を開くことにより自然に観光地化され、食事や宿泊が潤って来ました。それも一つの大きな観光振興になります。観光振興プランにおいては、観光客をどうするかが大事です。そうなるとバリアフリーの問題が必ず持ち上がります。地下1階に鉄道があるため、地上に上がるためのエレベーターが少ないことが言われていると思いますが、東武や西武の開店を待って店のエレベーターを使うこともあります。MICEを大きく誘致するとバリアフリーは避けて通れない問題になります。

会長：都市観光にとって買い物は大きな要素です。買物はかつては観光に入れていませんでしたが、買い物に来るとということが観光にとって大きな要素になってきました。池袋にとって、とても大事な観光資源です。デパートと電器店は大きなものがあります。池袋は学生から女性が買物を楽しめる街、女性が大好きな街だと聞いたことがあります。街の形が回遊しやすいトライアングルの形になっています。ただもう少しカフェがあると良いと言っていました。それからMICEですが、ホテルがないと難しいため、池袋でどのようなMICEが可能か検討は必要です。劇場はMICE会場として使えるのでしょうか。

都市計画課長：HarezaはMICEが前提ではありません。計画論ですが東池袋1丁目で、中池袋公園の隣にあるエリアにMICE機能を誘致する計画があります。それ以外に実際に機能するものは現状ではありません。

会長：会議、コンベンション、学会だけではなくMICEにもいろいろな種類があります。池袋には大学もあります。何が可能なのかは検討すべきで、コンベンションビュローの機能をどう作っていくのかということは考えていくべきです。

委員：ワーキンググループでまちづくり会社を作るという意見があったと思います。三菱地所等が動いているそうですが、実際にはどうなのでしょう。

都市計画課長：Hareza池袋と中池袋公園のエリアの完成時に、一般社団法人を設立しここがエリアマネジメントを行っていきます。西口の公園も検討していましたが、再開発が計画されているためその進捗に合わせ、街づくり会社の設立は見合わせ

ています。今後、三菱地所の開発に合わせて一緒に作っていきます。グリーン大通りは沿道のステークホルダーと協議会を立ち上げています。将来的にこちらを法人化する計画は理念としてありますが、期限を区切って検討している状況ではありません。

委員：コンベンションビューロー機能を持っている部署・担当課はあるのでしょうか。

委員：観光課には国際会議の部署はありませんが、以前から観光振興プランにおいて MICE という言葉が出ています。現在でもサンシャインの中にコンベンションビューローがあり、東京芸術劇場でも管弦楽に限った国際会議は行われています。大規模ではありませんが国際会議は行われています。

委員：サンシャインや東京芸術劇場では、何らかの受け入れ窓口を持っているのでしょうか。

委員：サンシャインには以前からコンベンションセンターがあり、そこが窓口の機能を担っています。

会長：池袋地区としての受け入れ窓口なののでしょうか。

委員：サンシャインの部署であるため、豊島区の窓口であるとは把握していません。

会長：いわゆるコンベンションビューローというのは一括してコンベンションの相談を引き受け、ホテルや会場を押さえる等、一元化した対応をします。一般的には商工会議所や観光協会の一部からスタートして独立していきます。今はホテルの MICE 誘致の取組みも限られています。

委員：ホテルも取組んではいますが、MICE 誘致の取組みは現実的には難しいです。開催場所の引き合いは多く来ます。ワールドホテルのコンソーシアムに入っており、セールスオフィスから話がきますが、最初から東京で開催するという事は決まっておらず、最初はアジアのどこか、東京、大阪、インチョン、ソウル、香港、上海、シンガポール等で検討した後いずれかの都市に決定します。

会長：東京都の観光振興プランでは、東京という都市単位ではなく、地区ごとにコンベンションを品川、六本木、お台場等で引き受ける動きになってきています。国際フォーラム等の施設やホテルがあるところで引き受けています。池袋を中心にして MICE 誘致を推進していく可能性はあるのでしょうか。可能性が難しければ書かない方が良いでしょう。

委員：MICE 後のナイトライフを考えると、東京の他のエリアから呼んでくることも大事です。また小さな会議室があれば MICE 後に観光客を呼んでくることも可能だという考え方もありますが、それも十分に検討されていません。今後戦略を検討するという書き方をしてはどうでしょうか。こういったプランでは主語がないことが多いのですが、それを常に意識しながら書けることを書いてはどうでしょうか。主体がなければ書くべきではありません。ショッピングや気軽な食ということがありましたが、カフェの数が足りないということがあります。ただ池袋は渋谷や新宿とはサイズが違います。非常にコンパクトで住宅街がすぐに広がっています。

高度化されたターミナルシティが特徴で、庶民的な、気軽な街であることを強みとしてやっていかないと他のエリアとの差別化ができないのではないのでしょうか。議論は必要ですが、他のエリアとの差別化を明確にした観光のあり方を示すべきではないのでしょうか。差別化を図ることで、池袋や豊島区のブランディング、人を惹きつける街のイメージが確立できるのではないのでしょうか。ポイントは、気軽に本物と出会える身近な街です。ないものを無理して創出しようとするべきではありません。「気軽に本物と出会える」イメージをどうやって醸成し発信していくのか。区がすべきことは何に対する情報発信をするのか決めるということです。今挙げられた方向性で集めた情報を一番上に持って来て発信するシステム作りをこのプランで検討してはどうでしょうか。

委員：豊島区のホームページには、渋谷等の他の観光地に加えてプラスワンで池袋に来て下さいと書かれています。この建物を作った先生が言っていました、新宿、渋谷と比較して、渋谷は縦に伸びる街、新宿は地下に伸びる街、豊島区は平らなため回遊してもらおう街だと言っていました。

委員：海外のロコミサイトで圧倒的に記事として出てくるのは、買い物をする大型のショッピングモールで、他にはパブ、居酒屋、ラーメン屋等です。また行きたい街は「アクセスが良さ」が非常に評価されています。意外に海外の人に評判なのは消防署です。6階に防災館があり、地震や火事の体験ができます。夜に煙が出た際の非常灯の見え方等が無料で体験できます。毎日外国人が並んでいます。そういった施設は海外にはないと思います。

委員：体験ということに加えると、海外のVIPはすでにモノは買いつくしており、人間ドック等、日本の医療機関を受診するニーズで来られています。

委員：住民目線ですが、公園の開発について、区民農園があれば良いです。食やエコにも繋がりコミュニティもできるのではないのでしょうか。池袋で畑がしたいです。屋上や公園の敷地を活用してはどうでしょうか。

会長：屋上でやればヒートアイランド現象に効果があるでしょう。もう一つ言うと屋上に温泉を作ることが考えられます。クーリングの排熱を利用すれば簡単にお湯が沸かせます。一石二鳥です。ビルを建て替える際はぜひ考えていただきたいです。これが未来の環境都市の姿です。市民農園は交流にもなり、森を作ったり、野菜工場を作っても良いです。壁面も活用できます。食文化にも繋がります。観光振興プランはそういった夢のあるプランにしたいと思っています。

委員：池袋で歌舞伎が観られるという非日常があれば、田舎に行かなくても池袋に里山があるというギャップがあっても良いのではないのでしょうか。

会長：目白通りが付け替えになり、目白駅の前が空きますが、あそこを森にしてはどうでしょうか。実際に大手町の駅前に4000平米の森を作りました。その上にアマン東京というラグジュアリーホテルがあります。近くに星のやという旅館もあり、丸の内にすぐ行くことができます。これが将来の都市の姿ではないのでしょうか。

観光事業ではできませんが、魅力的な都市のあるべき姿を観光課が発信して描いても良いでしょう。まとめますとターゲットについては、ある程度方向性が見えました。国際アート・カルチャー都市構想で呼び込む文化度の高い人も大事ですが、大勢の池袋に親しみを持っている人たちも大事にするべきです。これでは絞りきれませんが、そういった人たちも大事にしていく必要があります。また住民にとってもメリットがある、生活をしていく上での豊かさを感じられるまちづくりを観光によって整備していくという視点も大事です。民間事業者と住民のあり方、組織も考えていく必要があります。食についてはぜひ検討していただきたいです。17カ国の料理が食べられる街という話がありましたが、庶民的なラーメンや焼き鳥が食べられるという幅があります。買い物の魅力もぜひ生かしていきたいです。MICEについてはなかなか難しいですが、何かあれば更にワーキンググループでご意見をいただき、方向性を考える必要があります。キーワードとしてヘルスツーリズムが出てきましたが、医療観光等、豊島区は他に対してどこに優位性があるのか今後検討する必要があります。4つの公園は違った特徴を持っていて、それらがより磨かれると非常に大きな可能性が出てきます。区民農園等将来の街のあり方全体に対して、観光の分野から言うことができるのではないのでしょうか。つまり商業地区の将来のあり方として環境都市も考えられます。

委員：今回池袋の話しか出なかったことが気になるのですが、それについてはワーキンググループでも議論されていました。

会長：池袋以外の街についてはどのように皆様の考えはあるのでしょうか。例えば雑司が谷等はどのようにしていくのか。

委員：国際アート・カルチャー都市構想は前回の取組みでキーワードとして出ていましたが、観光振興プランは国際アート・カルチャー都市構想を深掘りしていけば良いのではないのでしょうか。観光客にとっては巣鴨、駒込、雑司が谷がどんなところかわかりません。「昔からの日本文化がある雑司が谷」、「庶民の生活がある大塚」、「食器を買う巣鴨」等、買い物・飲食を通じた文化や体験（コト）等にフォーカスを当てて観光客を誘致してはどうでしょうか。雑司が谷は知っている人にはわかりますが、地区名だけでは分かりにくいです。地域のカルチャーで分けた方が観光振興プランとしてはおもしろいのではないのでしょうか。そういう文化がなぜ生まれたのか示せた方が良いでしょう。

会長：豊島区の観光振興プランなのに、巣鴨や雑司が谷が出て来ないことは問題です。もう少しそれぞれの場所の魅力を言語化する作業が必要です。

委員：池袋以外の地域を扱う方法として池袋との対比があります。雑司が谷のような街は田舎に行けばどこにでもあります。池袋に隣接しているから魅力となるのです。その行ったり来たりがおもしろいです。同様に巣鴨や大塚を捉えてはどうでしょうか。池袋とのコントラストを見せた方がおもしろいです。

委員：課題の整理がまだ不十分です。豊島区全体では難しいため、池袋中心の話をし

ていましたが、共通する課題もあれば、異なる課題もあり、細分化して議論しても良いのではないのでしょうか。共通して解決できる問題を入れ込んでいくべきです。もう少し丁寧にゾーンを分けて頭を整理して行かないと、最終的にぼやけてしまうのではないのでしょうか。最低でも課題の整理くらいは意識するべきではないのでしょうか。

会長：他地区も含めて議論をしていきたいと思います。十分なまとめができませんでしたが、本日の議論はここまでとします。ありがとうございました。次回以降に向けて事務局からありますか。

事務局：ありがとうございました。次回以降については資料 3 に観光振興プランの改定スケジュール案がありますが、次回が 11 月ということでもかなり先になってしまいます。今後会長、副会長と相談させていただき皆様に周知したいと思います。3～5 回目のワーキンググループについては今日の議論の結果を踏まえて進めていきます。委員会の日程は改めて調整しご連絡します。

4. 閉会

以上

配布資料	資料 1：観光振興プラン策定委員会名簿 資料 2：第 1 回策定委員会会議録 資料 3：豊島区観光振興プラン改定スケジュール 資料 4：豊島区観光振興プラン実施状況確認表 資料 5：豊島区観光振興プラン策定委員会ワーキンググループ要旨 資料 6：豊島区観光振興プラン項目（案） 資料 7：池袋駅周辺のまちづくり動向／池袋駅周辺文化イベントマップ 参考資料：第 1 回・第 2 回 WG 発言まとめ、施策の体系
------	---